



門 曾 4
號 600
卷 188



松窓雜錄目次



麻布水川宮祭禮度
遠山氏藏鏡
度牒

長崎之烽火

越後國地震 並牧野氏表紙

琉球人江都入 並菅絃誦之始末

美濃國地震

七不思議

流行放言 五七条

八幡郷古鐘

石川總長畧記

倭郡數

長崎環事

京都地震

水戶殿御書付之寫

流行篇

遠州之歌討

不退堂大文字



半成取ありき事ありき各り管區くして殊外泥礼し及以
信島西のわくり居りて午時比り今お侍主とてのくすり小成
繕てして通し以通る事二三度と信来し通ぬ事ありて事以
之止出此れ山坂多く深のれ生多し其中日言も及以市史
より夜中、世用のくし船とて取云とて皆仕置するはしり予
原交迎の子物、林午後、川也二ノ数子入る神樂汁と志し絶倒
すり是ハ市史を多く贈と貪り己の信をいれあけし及りけ通の
諸屋別業もも大家多く入来のりし物多し衣の袖末取同公を
作し年書名も多し呼あきれ叱れし可成り及り物や
遠ひさんく不深判し成り日とあきよまひあるくし予方より
取人あきり麻布七村のりともお儀しし以り此年よりお儀

かく再び各後序より一カ方ちり衣の袖末獨あきりよみあり
物よりの中し強ひて拂ひり長篇の漫言を述たり

君不聞、氷川御祭話、町中氏子擲高賣、
老人忘我、烏頂天、取々品評充世界、
昔時御祭難過一分、豈及當年趣向半、
傳謂山王全閉口、今度評判大評判、
衆々争一志身上、面々不負飾錦衣、
飾得鶯絨紋縮緬、或又羅紗猩々緋、
女子鉄棒勇打扮、唐人管絃野暮姿、
樓船糴出恰別事、噺家行列存外宜

打囉太鼓如雷，獅音。
○ 掛列挑灯，自月明。
杆屋先生調子高。
○ 清元親玉音曲清。
集來見物幾十萬。
○ 助老抱幼不厭遠。
前夜賑合，昂如沸。
○ 當朝混雜倍甚。
街市店前構棧，敷。
○ 屋輔窓外捲青簾。
人迎客待時刻。
○ 恰似炎天願雨霑。
練込不插大隙取。
○ 見分濟比已午過。
午過率出，實延引。
○ 三里引場難處多。
牛車地車不自由。
○ 踊兒警固惑山坂。
方所望難點止。
○ 緩率中及日晚。
日晚一切不可引。
○ 市史嚴命響諸方。

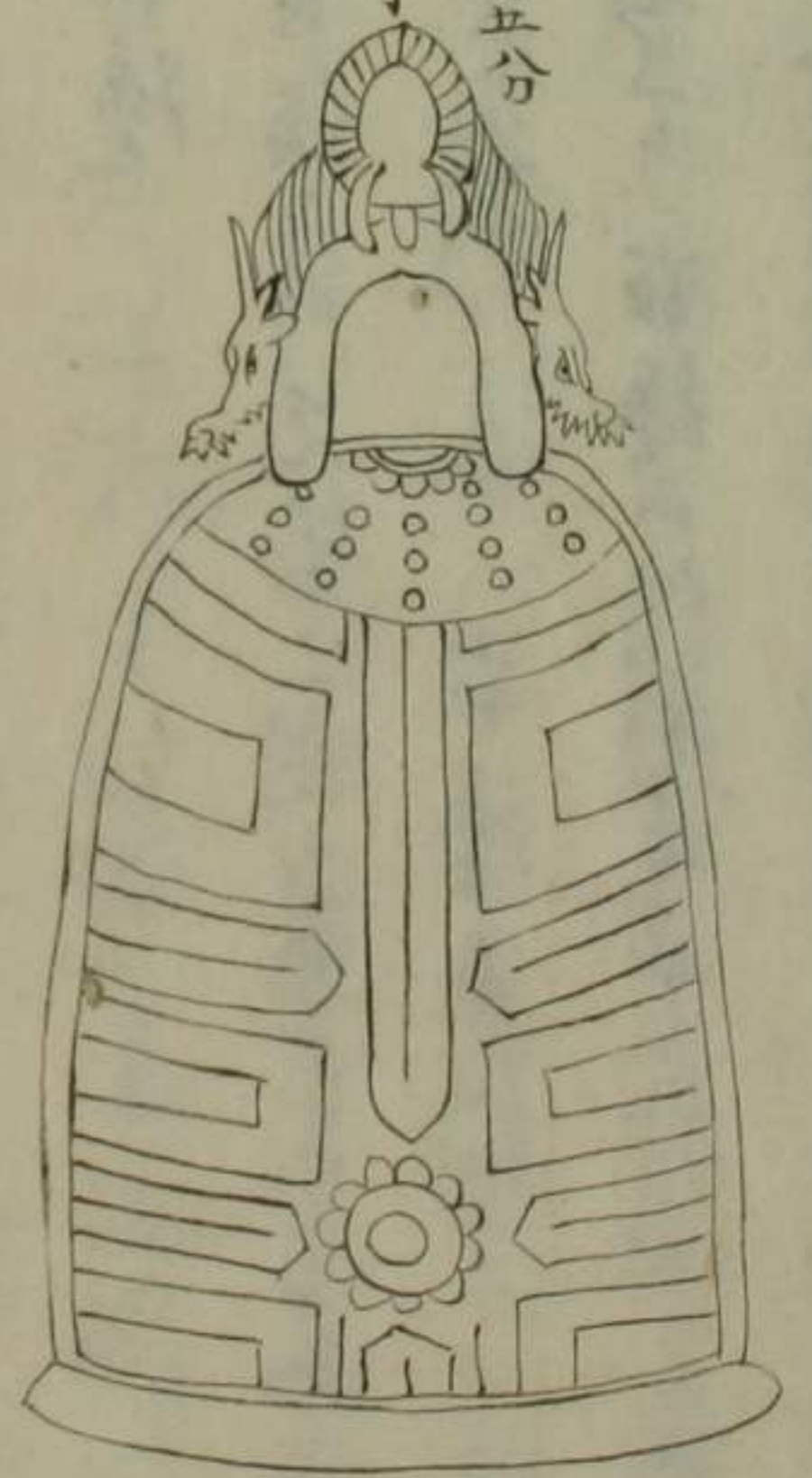
折角御祭半途止。
○ 散班皆分行。
白金近邊曾不通。
○ 見者悅賞不見怒。
與初違而評判惡。
○ 年番被此名主誤。
於云七村相談決。
○ 率直御祭辰年秋。
氣休口上一時道。
○ 雖然是亦實難謀。

別當

法漸寺

寬政五癸七年正月十九日 出所銅鐘之銘曰

丈三尺龍頭七寸五分
指渡取尺亭



敬奉治鑄銅鐘

大日本國 東州下總 第一鎮守

葛飾八幡 是大菩薩 傳聞寬平

宇田天皇 勅願社壇 建久以來

石大將軍 崇敬殊勝 天長地久

前橫巨海 後連遠村 魚虫性動

鳥鐘曉聲 人獸眠覺 金磬夜響

永除煩惱 能證菩提

元亨元歲醉十二月十七日

願主右衛門尉丸子真吉

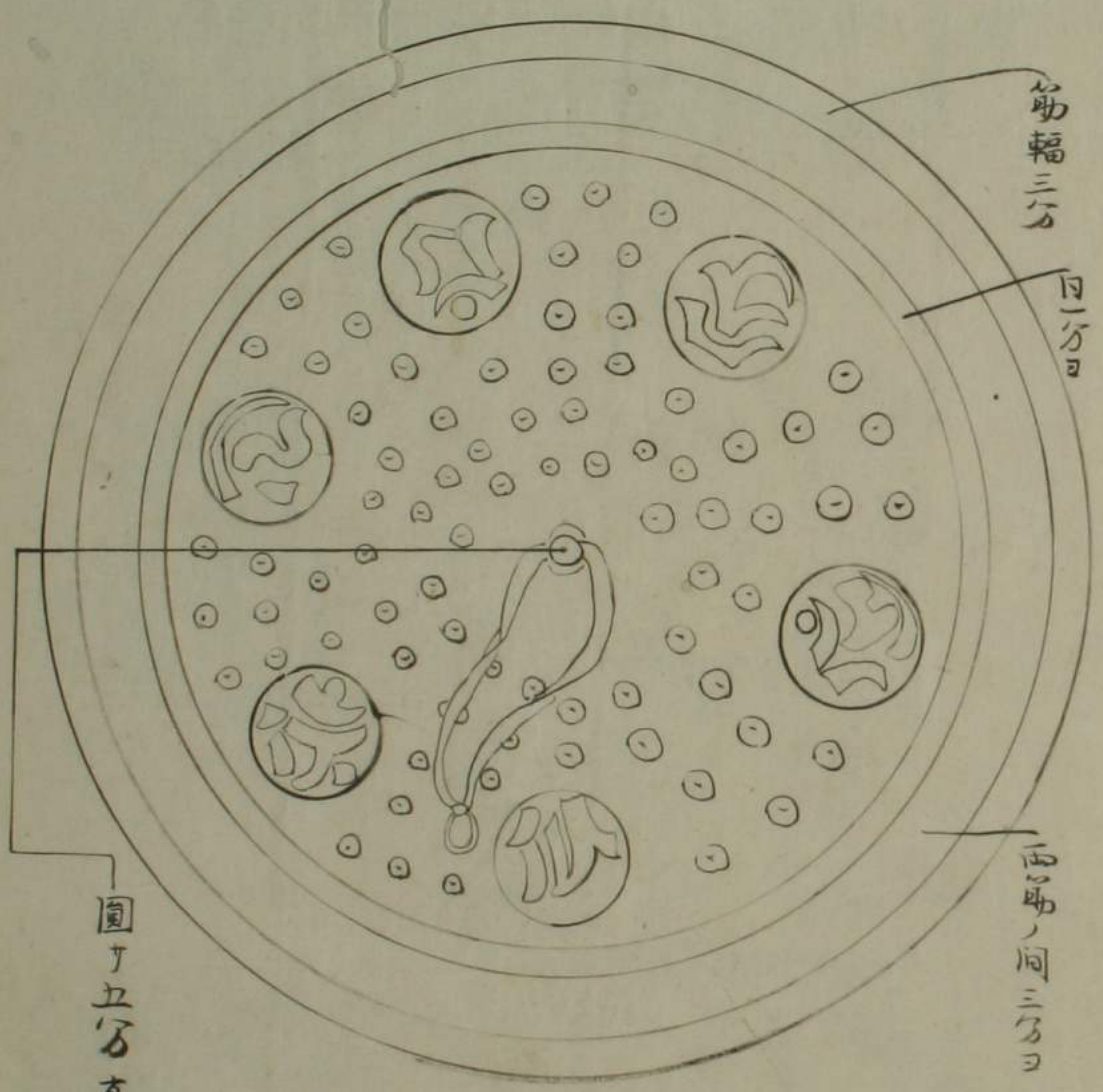
別當知回

自元亨元年今至天保元年一曆數五百九年也

○遠山氏藏鏡

天保六年乙未四月十二日夜初更に比今大渚金園老翁より
 予に一洗せりて賜りて是遠山の原土景晋翁の秘傳あり
 可惜之流りて又年曆に添状し分り依り来由不詳也古鏡と名

圓一尺二寸一分
 厚サ一分ヨ
 鏡面中高シ



圓一尺二寸一分

六字
各
中
上
下
字
六字共
圓二寸
方



四
教
七十二點



○石川總長畧記

坂家旧記坂上池院 寬文元年辛丑十月廿二日石川播磨守源
 總長卒五十七歲石川之政以忠後次男母八坂尾芳乃吉晴女

萬治三年庚子十月廿二日石川播磨守總長
 為大坂定當加賜米地一萬石

東武編年要錄 寬文元年辛丑十月廿二日大坂定當石川
 播磨守總長卒 ○又慶延司畧記 同日

杯家作

辛丑十月下旬石川播磨守卒於難波城斯人累世士林俊也
 今茲被撰拔自東武往為難波城留後加其食邑人皆以為榮未
 踰年而不幸如此余相識有年不堪歎惜作挽詞一絕以呈令姪
 殿中監君云

名在武林超等倫一方守衛一潘臣難波十月早梅茁乍遇

暴風無遇春

庚寅十二月二十四日江州膳所城主大中大夫殿中監石川君忠總易
實於東武之館聞者無不哀惜焉我即罷四十餘年之舊識也
故余亦被善遇有年矣豈不悲歎乎乃綴野詩一章以擬緋謳云
武名藉甚有芳譽暇日簡編猶卷舒敬馬見江州関畔雪
班如五馬泣連如

○度牒

我國昔々唐の法よりして僧は度牒を與へたるは
ひの度牒の寫をとりて入るなり

卯、文字如此
度牒

治部尚書

城川路東山東福禪寺童行士思本貫係本州乙國縣人事
俗姓秦見年十五歲投禮當寺住持士雲長老為本師賜

紙度牒剃髮受貝者

右被太政官符備左大臣宣奉

勅件度者姓秦宜治部省與剃度牒至准
勅故牒

正和元年四月八日左太史

小槻宿稱清特給

矢多議郎兼治部郎

從四位下行神朝臣康光

馬

典主 宰事官

闕

鴻臚 丞

此二字カケテハカ
從位下行 藤朝臣 定行 泥

鴻臚 少 卿

闕

典客 良 中 署 令

此一字カケテハカ
從位上行 平朝臣 高廣 部

治 部 主 事

闕

治 部 郎 中

此二字カケテハカ
正位上行 江朝臣 公經 局

治 部 侍 郎

此二字カケテハカ
正位上行 源朝臣 光房 局

石莖色の厚紙の板を二層とて厚さ二寸五分を横二尺二寸五分を縦に用いて、下の方二寸五分を大字、小字部をいさうし、大々あり、残りの版を小字及び押下大字、用正和三四八の五字、添付し、書えし書の内容を列し、花をこれより、これより、度々の友名を

用ひ、これより、宋の制より、城別路と稱せしむる也。
お今の板の書は西土より、六代の時より、活板ハその後宋の慶暦のるより、まほし我々の慶長の頃の書皆活板を、この後、その利板出さるるより、是より、其後、活板を、是れ、昔ハ利板の書あり、是れ、慶長の比、吾れ、つ、こ、版、使、利、あり、より、活板を、用ひ、は、あり、

○倭那教

明の成化中、朝鮮より著し、石の六年通載、我國の事、と、委、委、と、し、二十、三、列、六百、二、部、と、名、の、教、書、る、と、の、國、は、あり、て、は、那、教、の、行、は、る、と、是、より、し、は、異、方、子、を、り、し、那、教、と

在舟の雷鳴日光星等の状あれとも画さるるも
 こゝに夢の事をもあしき海にやいふ事とて



亭一草 唐船



龍
サレコケケ



虎
尾ハコケケミス



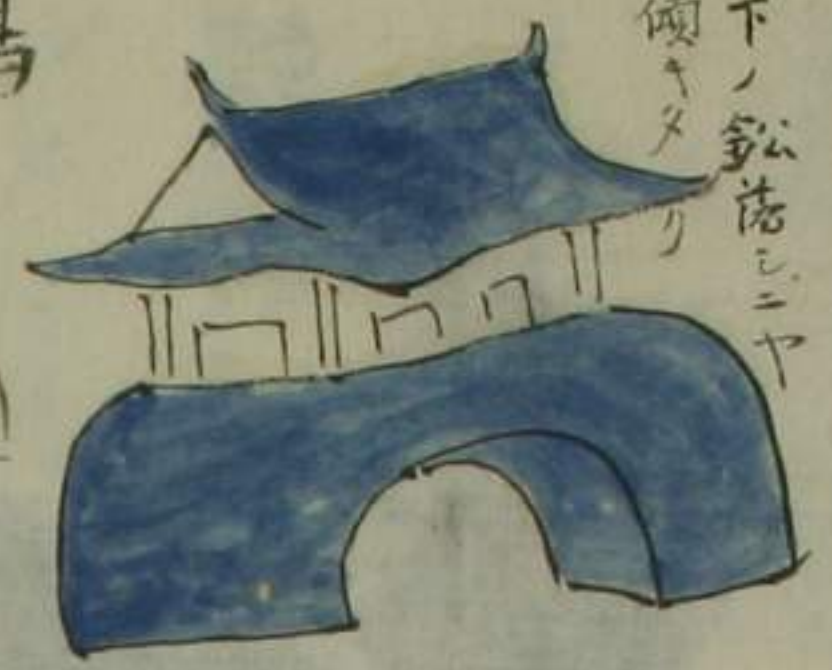
福祿壽



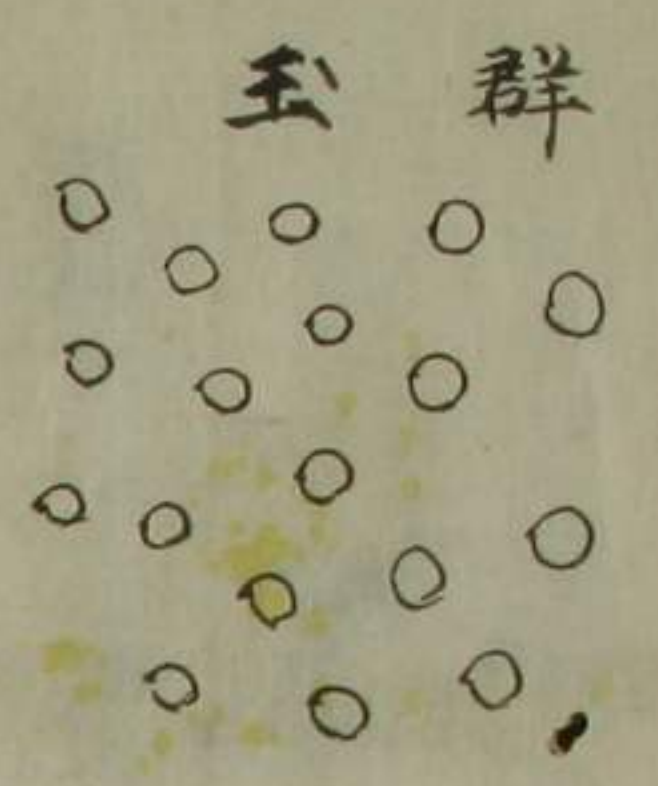
柳木烟黄



双鶴



樓門
下ノ松落ニヤ
傾キタリ



群玉



船



黄烟往来



琴高
仙人



力士



柳烟黄



象

入宰

一、身ノ尊ニ上
揚ノ全也

一、身ノ尊ニ上
入宰

日人皇姓ニ曰家ノ中服金ノ賜
天章ニ志ニ切ニ通ノ麻布ノ村町

孫ニ侍臣
間ニ侍臣ニ事

十歳

三十一

長傳ニ曰流傳世世一、通ノ右ノ十歳

ハ世

三十八

日人役不中ノ通ノ村町ニ事

文ノ帝ノ臣

赤

三十九

四十七

一、身ノ尊ニ上
揚ノ全也

一、通ノ尊ニ上
揚ノ全

長傳ニ曰流傳世世一、通ノ右ノ十歳

トニ

二十八

長傳始女ニ通ノ村町ニ事

赤ノ侍臣

勤ノ帝ノ臣ノ臣

赤ノ侍臣

三十九

四十七

日人皇姓ニ曰家ノ中服金ノ賜
天章ニ志ニ切ニ通ノ麻布ノ村町
孫ニ侍臣
間ニ侍臣ニ事

西村新之帝

三十一

一馬の身の上
入牢

同人皇座跡高女殿の南付
堀江の町所跡

深沼市店

多田市方、指

柳江幸治市妻

菊蔵

辛多

長崎と小高の海——南付

右の菊蔵市妻

と子

と子

一馬の身の上
揚の金

右岡井浮金も及新出居宅山岳の常作及立合仔等とて及

長崎一馬の身の上の書面も狂文の形跡多ありし、皆其ひた
りて是(指)あり、此や

○ 敏後の地之辰 野郎女より、辰

文政十一年戊子十一月十日、同十字の之地辰辰、津家山為
如荒人等の情我高し人句と尋せし、その事ありしを、
し、し、市街を尋らひし、し、し、を、同、し、

長崎一馬の身の上の書面も狂文の形跡多ありし、皆其ひた
りて是(指)あり、此や

牧所傷者甚多，積頌之，故後國長是公，亦以地震之破，檢不并
 博我人，七教多あり，同年十二月，有（三）七（七）七色別，其
 以手紙，波多之，知（七）七，由希多，命出，故分，誠後國，本，是三月，百
 地，震，之，津，城，月，出，故，檢，不，功，沙，家，中，町，在，清，家，山，宿，口，細，荒
 不，死，人，怪，我，人，亦，在，且

- 一 沙中丸沙徑糸白大破 一 沙摺大破地形刻 七ノ不
- 一 沙多門大破 二ノ不 一 沙門大破 七ノ不
- 一 冠木出大破 三ノ不 一 塚倒 言九言
- 一 塚大破 十百言 一 指破損 七ノ不
- 一 指法石垣高 七ノ不 一 古宿大破 二ノ不
- 一 法守祐破損 三ノ不 一 柵大破 三ノ不

- 一 園軒破損 七ノ不 一 沙法糸破損 二ノ不
- 一 廐破損 七ノ不 一 役不破損 二ノ不
- 一 不々地裂石 一 清城外出大破石垣為倒 七ノ不
- 一 冠木門破損 六ノ不 一 塚倒 九ノ不
- 一 石垣崩 七ノ不 一 柵倒 二ノ不
- 一 清城外出大破 七ノ不 一 役不破損 二ノ不
- 一 園軒破損 七ノ不 一 沙中法家 九ノ不
- 一 中家中大破家 百ノ不 一 同潰古家 二ノ不
- 一 同大破古家 十言 一 足控中言法家 百言
- 一 足控中言大破家 六ノ不 一 祐大破 三ノ不
- 一 鳥居大破 三ノ不 一 法祐家 二ノ不

只目の乃々おひ一面と奉とあて人の言てえ一は未後と
 て産品産面を引續て流人南忘を言凡産雪と報
 之を音楽と云々〜〜〜折々笛報証の言々
 之を産品産面を引續て流人南忘を言凡産雪と報
 之を音楽と云々〜〜〜折々笛報証の言々
 之を産品産面を引續て流人南忘を言凡産雪と報
 之を音楽と云々〜〜〜折々笛報証の言々

流人名前大畧左と通

正使 豊見城王子

副使 澤城親方

讚儀官 小録親雲上

樂正 伊舎堂親雲上

儀崎正 儀間親雲上

學翰使 與那霸親雲上

正使使讚 與儀親雲上

玉城親雲上

浦崎親雲上

讀谷山親雲上

眞栄平親雲上

與古田親雲上

小波菰親雲上

池城親雲上

内間親雲上

貝志川親雲上

城間親雲上

潘久郡里之子

濱元里之子

登川里之子

樂童子

副使使讚

學翰使

宇治石里之子
 小深里之子
 瀨名波親之上
 許田親之上
 比嘉親之上
 高原親之上
 名嘉地里之子
 出有真親之上
 國吉親之上
 貝志川里之子
 泉水里之子

供玩人

贊後使

富永里之子
 宮里親之上
 徳田親之上
 佐久川親之上
 知念親之上
 濱元親之上
 立津里之子
 安室親之上
 比嘉親之上
 大工廻里之子
 田中流登之

屋嘉比流登之
 古波鏡流登之
 龜溪流登之
 仲本流登之
 岸本流登之
 新垣子
 長田子
 右波流登之
 株間子
 比嘉子
 東園子

高原流登之
 赤宗田流登之
 池原流登之
 宮株流登之
 崎山子
 松田子
 山城子
 宮里子
 崎山子
 赤宗城子
 安里子

森田^{モリタ}や
松田^{スギダ}や

當志^{トウシ}や

路^{カテ}子^テ親^{クニ}重^シ上^ノ

佐久^{サク}本^{ホン}筑^{ツク}也^ニ

大城^{オホシロ}や

翁^{オウ}長^{チカ}や

系^{ケイ}教^{キョウ}や

赤^{アカ}岩^{イワ}や

高^{タカ}良^ラや

伊^イ音^{オン}川^{カハ}や

安^ア仁^ニ屋^ヤや

仲^{ナカ}部^ベ渠^キや

屋^ヤ良^ラや

瀬^セ底^{ソコ}親^{クニ}重^シ上^ノ

嘉^カ教^{キョウ}筑^{ツク}也^ニ

新^{シン}垣^{カキ}や

宮^{ミヤ}城^{シロ}や

江^エ田^ダや

右^ウ波^ハ花^{ハナ}や

石^{イシ}川^{カハ}や

玉^{タマ}城^{シロ}や

丸^{マル}丸^{マル}嘉^カ教^{キョウ}

以上

比^ヒ嘉^カや
丸^{マル}丸^{マル}嘉^カ教^{キョウ}

流人の和歌集のりう歌多路れりうされしと依
方う部一依て田者入申出下多りうありのと一
あり

わさりのみのかさうり出て日の中め

かきりをおのりかたのやひや

武蔵野は原とみりうた入る

とくちの軒りひんり

曲見城王子

澤岬親方

の事... 國の家... 松平大將

花のおに戸の... 澤岷親方

その... 和人の他

あり... 狂歌

は... 歌

流人... 城

又... 城

流人... 國土月廿日

宗... 養

舞... 細

... 細... 茶... 山... 出... 深...

踊組

一 團踊ワタリ

立津里之子

崎山子

二 麩踊サイ

名嘉地里之子

渡慶次流之

三 笠踊

立津里之子

崎山子

四 御代治口ミヨドノシゴ祝イハヒ

名嘉地里之子

五 一步組踊イツクミ

立津里之子

崎山子

六 一步花イツクミハナ鼓カ

大相公 德田親孝上

唐踊

七 和番ワハ

坂間親孝上

佐田親孝上

老公 坂間親孝上

立津里之子

曾家 佐田親孝上

國書系 瀨名波親孝上

玉昭君 名嘉地里之子

馬夫 洋田親孝上

柳喬 崎山子

皂隼 渡慶次流之

日 屋嘉比親孝上

八 四竹ヨシタテ踊

立津里之子

九 柳踊ヤナギ

立津里之子

十一 笈口ウケ祝イハヒ

名嘉地里之子

右四人の後、嘯吟の樂人五人

右四人の後、なり

嘯吟

箏

笛

里之子

里之子

琵琶

三絃

四絃

二絃

胡弓

里之子

日

日

日

日

右、形、子、似、方、樂、意、多、分、し、分、内、中、原、身、也、

上の六人の後、六人、笛、の、如、く、
列、在、し、拍、子、木、と、嘯、吟、の、
唐、音、一、曲、を、奏、せ、て、お、り、里、之、子、
六、人、退、て、又、列、の、樂、意、と、持、出、す、
左、通、り

胡琴

三絃

五人

二人

右の三人、後の二人、再度、管絃を、始、ま、り、
唐音、も、分、し、次、を、送、越、の、事、あり、

三度、も、管絃、終、て、又、流、石、の、踊、を、成、し、十、六、番、合、々、
後、一人、魔、踊、の、如、き、出、立、せ、り、持、を、持、し、踊、を、是、
と、謂、う、人、は、左、子、は、後、子、と、云、り、右、子、は、撥、を、持、
左、子、は、又、ハ、子、は、撥、を、持、し、九、鐘、と、左、子、を、合、
或、ハ、左、子、は、挿、板、を、持、し、右、子、は、九、鐘、と、左、
恒、夜、後、方、を、上、子、は、何、き、り、ヤ、ハ、カ、一、部、
何、し、も、樂、人、二、人、先、後、の、方、に、列、在、し、三、度、胡、弓、
子、れ、と、似、し、る、樂、意、多、分、し、分、内、中、原、身、也、
ハ、何、し、も、竹、と、も、言、葉、も、あ、り、時、に、樂、意、を、
心、を、打、て、拍、子、と、云、

ありて唐踊、合の狂言とていつへし樂人をすし、其者詞の
無合之皆唐音として分められたれとて、是れ大畧なる
あり、爰に堪へり、其あり、其人、支度出来、其の樂屋を
物子未、其の物子未をおと、列を、物子を、舞て、多
く、つ、こ、小御者、之、を、お、ま、二人の樂人、管絃を、う、む、唐
踊の、付、の、樂人、お、ま、也、物子未、之、証、も、か、し、流人の、中、名、嘉、地
里、之、子、の、胸、に、て、名、人、之、も、也、身、の、高、か、し、方、也、妙、之、唱、上、志、の
中、之、良、夢、め、志、あ、る、人、を、名、か、た、れ、也、

右の管絃、亦、亦、果、し、此、ハ、己、夕、陽、も、あ、ひ、つ、り、再、度、以、來、の、華、亭、子、を、
實、業、お、吃、し、新、厨、を、重、出、せ、も、ま、し、予、ハ、此、ハ、流、宅、也、今日、
流、唐、踊、を、う、む、ハ、其、ハ、流、宅、也、記、幸、以、向、り、當、中、一、人、ハ、管、絃、を、

ま、し、は、あ、れ、も、踊、ハ、か、し、是、ハ、唐、唐、の、如、也、亦、亦、ま、し、し、流、人
流、唐、中、唐、唐、の、命、ハ、依、り、唐、中、の、少、年、と、も、好、人、在、り、踊、を、看、
み、し、り、是、ハ、流、人、の、後、唐、唐、と、り、近、親、の、大、名、を、う、ま、れ、て、踊、の、形、勢
を、う、ま、せ、し、ま、し、と、あり、○、予、右、の、踊、を、見、た、の、後、感、心、を、得、ま、り、
園、書、の、ひ、ま、り、し、し、口、ハ、任、重、し、手、重、し、し、し、相、詩、和、文、川、柳
の、形、多、く、あり、皆、列、集、を、な、ま、し、れ、ハ、方、ハ、四、界、ぬ、され、と、も、中
初、と、ら、あ、ら、な、い、と、も、也、

拜見名嘉地里之子

琉人、音樂、画堂、前、中、有、一、人、美、少、年、
踊、和、番、御、代、祝、一、緩、一、急、儻、蹀、
趣、薩州君、莊、館、觀、琉人、管絃、踊、

君不知今度琉人踊。我到薩戾成看官。
觀是不些又近處。自朝迨晚十分觀。
此事決而不寓說。若思寓言說來由。
抑抑琉人踊見物。早朝出宅趣薩戾。
已到朱門出檻札。不持檻札不銀行。
從之關吏為案內。誘引廣庭泉水傍。
泉水傍有一茶屋。此茶屋則号藤屋。
前臨池水後添山。山路羊腸列樹木。
如是茶屋處處在。園中瀟灑不堪幽。
層冰融處接雙鴨。亂杭並邊繫小舟。
暫入此裏憇居處。追追集來見物邸。

各待沙汰坐還久。稍及退屈喰兵當。
其中小吏漸知來。直樣各趣看官場。
此場人數爪難立。進先閑窺舞樂方。
數十毛氈敷板椽。定紋幔幕掛梁簷。
群臣交袖連高殿。高殿四方垂竹簾。
竹簾垂處置看者。簾面畫成青海波。
遙望祭然如帷帳。此中見物女兒多。
庭先別構看官所。此處何連大小名。
案內引吾臻此場。此場間近見分明。
良而出來琉球人。正使副使掌翰使。
銘銘拜謁画堂前。拜謁已終坐右侍。

言詞不異，和人語。不用通辭，委細便。其裡樂人追追出。列坐正面，始管絃。管絃拍子最奇哉。樂器色色有數品。架鼓、銅鼓、響鑿鑿。長笛、短笛、聲凜凜。二絃、三絃、又四絃。胡琴、洋琴、且月琴。銅鑼、擊拆、打和是。時時有唄，皆唐音。唐韻不分拍子好。其餘音樂樣樣在。一一相濟，皆引次。從是樂人，柴束改。柴束改，閑始舞樂。舞樂所謂，琉唐踊。琉唐踊，至多番數。踊之形勢，又別種。舞人多有親雲上。又里之子，筑登之。

妙手每番皆有，名番所見處，少無違。團踊、笠踊、節口說。和番四竹、打花鼓。其餘色色盡秘曲。十五番組，濟十組。十組已濟，暫休息。自之再度，有管絃。管絃終，又成舞樂。急急緩緩，儻數篇。下口說還，朱買臣。借衣靴，或風箏記。奇兮妙兮，噫奇妙。他所決不出來事。琉踊成時，有絃歌。唐踊樣樣，詞懸合。詞懸合兮，皆唐韻。唐韻叭叭，難聽。絃雖難聽，納分其意。錦袍繡袖，彩色新。著冠戴帽，或挿簪。况還好男，一西人。

此様男奈居異國。再歸異國真堪惜。人謂畢竟皆因藝。若又無藝留何益。色色様様密成評。其裏己果十五番。舞樂相濟各退散。夕陽入嶂及黄昏。其足再度趣藤屋。至云休息吃煎茶。喰殘行厨又把出。行厨喰盡分歸家。歸家折思出踊形勢。他人聞是皆願觀。如何如何他人身。此事豈教容易看。

めし乃口はさきもあ留並は年應て後の一息とり
ありぬへしお流人市暇持ぬおホとお母ては戸

表發是ハ十二月丁二日なり予計日も落別度多儀の在り候也
糸八方よりしてし物々々々計日々忘の自と遠入一天性清風
移りて自ら其の氣候を懐き午後刻刻し客舟を流人
道のりも水津他も附添せて舟是も舟の道樂はなき
あれども度々業翁友の物々々々流次音樂尚有る日の如し
されども落度物見下計りのうし予も亦さし長谷の物見の
例に依りて分りお母のしり樂童子の行止も持物也編編小
彩繡也しと流肢よ仕立く若世のむ解素へそ外観言し
上流也之等も和の羽乱を多く腰よ下けたり行列も礼
道は海客も清浄き予威稱も堪へたり一絶を賦し
しり尤よお母

○流行篇

文政八年より此或人之戯作

捨子噂休三子生 駱駝談盡蟒蛇盛
延壽最期町内惆 官戸頭死坐中驚
藤八五文尤奇妙 笹雪六銅益流行
請看西國神事舞 評判高自千本櫻

○七物一語 一月寺同帳有内の流致言

一月寺と云ふは 平日の定帳 虚云信と云ふは 百段中言用
料理の二階と云ふは へんたのみ 去指と云ふは 大のみと云ふは
櫓下と云ふは ともてろ花 お初と云ふは 飛んて流

遠使書下 月大の之上

○遠別乃離村

天保二年乙未六月廿六日の事ありて 遠使書と尋ふと云文政七
年甲子の因か今石場村迄の旅人福景周知と云ふありて 妻
も此病を以て 子孫を計りて 七か所へこれ 妻の病の方口離く終
了なりて 乙未年百八十一下甲勤也と云ふ 者尋ふ事あり
友周知候ひて 而る而る 乙未年の 病を 物より 同年六月七日
妻候より 病を 傳へし 及び 周知 勤女の 不病の 振起を 濟
子孫に 遺く 候ふ 事あり 勤女 云ふは 是を 尋ふて 以て 中
無り 候ふ 事あり 乙未年 六月 廿七日 乙未年 七月 廿七日

の酒飯と語りて周旋すに夜はく解然とて幼物ハ先目己
 意事をも月夜とせりしと深く好くして夜中密に周旋と刺殺
 全滅無事田の刀を奪人遊遊せし後遠別入清道行在
 意并信二弟とひ名しし又源平父の横死の後ハ伯母と共
 一の文の歌を討んとて密に弟の行状をうけ忠しく海位とま
 ひゆし己よしむの心と相し母ハありし時をさし六十歳の
 年運小圓とまてとこれと歌の曲ハ幼物の弟を志すとて一とあり
 なく不世と備細一遠別とありて社業の心術一一心小大を感得と
 折てさるる或日山中よして履を捨りし時 病者よりありし時人の心
 心中ハそを脱ししとありてこの娘がハ入世し身子ハ一と在女
 ありんがハ後めて御一歌の日さるる時ありしと一と幼物と共在

戦後の國大地震

戦後の國大地震



東本願寺

本堂

十一の町

東本願寺
 本堂
 十一の町

幾世の圖々お味



意井は常々といふ事と撰りあつた後ひる後を親ひしよと保
 二年より廿六日の折回所臨終寺とて寺の市を出入りし衣
 折り合して物自とての事付し傳言を年並りて一粟田の刀を
 け何傳言とて一すむ中女の住方へつてつた折場を焼く
 あつて一も切落ひつて一も歌は年余の亮物かといふ傳言中か
 小腕のいあつてひつて一しこは名くつて一付何名とてあれを傳言か
 後よりあつてつて右の脇腹とてつと密く傳言をひつてひつて
 と保言常一彼も東田の刀つて一切伏も多年の切合をを連つて
 相右の腕力に保言中一歌の事秘を考つてつて一附あつてんは我の
 考つてつて先一保言常一秘の事秘を考つてつて一附あつてんは我の
 返り付あつてつて一保言常一秘の事秘を考つてつて一附あつてんは我の

例年... 神の...

能く... 小...

此第世上流... 方...

高時禁物

古風 異風 雲通 理屈 高橋 古慢 貧乏

出候 麻族

右... 沙... 色...

文政年中...

後... 黄金齋製



右... 目...

天保五甲午年秋日...

三

一 諸國 統

本年... 案湯

一 赤一お場ののぼせを引下ろす

一 世よれつくとせひくく

一 上をこきやうして下の海を拓く

一 えん金のほうをう

一 借源氣のほうをう

但し金虚してふ食をこけり

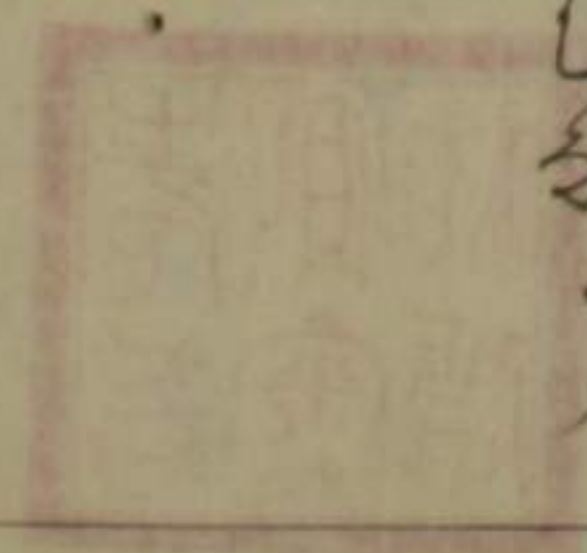
禁物

二百十日大日

列子とる金

八歌を即風とる

世界一級六十四別文



調合所

賣弘所

大方お堀有町

好井米穀製



高桑子所

世野中屋 五六

一斗百文とる

暗屋 共作

文政土年戊子三月十六日信齊先生より信定

柳營御連状

吹風も枝を鳴らぬをうさよたあ〜吹くは秋の連

天文も地の信も人の當も志も成るのうさよあ〜あ

者よを扱ひいぬ主様ぞ周防の御のまをよ信ふ

是れとととも元は是るもあつる腹は手は成るも

よ信ふもつるもつる大地辰をよけ人〜も信我人

きの上よ成れぬも信きもぬも水所西〜出ると

引こ〜の車は廻り輪回〜と雲ちぬ人の御を夷〜

龍の口をよた〜るゆは〜ありちると加治の御よま山

た〜る御も常も御石代〜れや御は〜つる國と

天文方古松信定(柳營の西園異國)流し
依り長崎表御味中揚屋にて筆ヲ不路振り

御老中松平周防守舎才百金証取年三統若邪
丹波守ト宅三ノ口論依り御後 御免

御老中松平直國郡丹波守若邪者一件ヲ
主税ト口論御後 御免

若年寄京極上総介丹波守主税重信若邪有〜御叔
若邪若年寄若邪若邪若邪若邪若邪若邪若邪若邪
若邪若邪若邪若邪若邪若邪若邪若邪若邪若邪

水野越前守西原元中松平信孝若邪若邪若邪若邪
御老中松平直國郡丹波守若邪若邪若邪若邪若邪

御老中水野元羽守此市願願願〜加増若邪若邪
筆は若山ノ下野守時知若邪若邪若邪若邪若邪

御老中若間郡下信守鎌倉露西原名代

松中の松之下〜と信の脂下〜と信のま〜と信の
太平さ〜と信のま〜と信のま〜と信のま〜と信の

堀大和守若年寄

日暮信定よ志の情をよ〜と信のま〜と信のま〜と信の

精梗は浮太靴一申して信定〜と信のま〜と信のま〜と信の

年のま〜と信のま〜と信のま〜と信のま〜と信の

元保三十二年正月七日等々
或老人、狂言也

つ〜と信のま〜と信のま〜と信のま〜と信の

ばせも信のま〜と信のま〜と信のま〜と信の

○不退堂大文字

天保二年辛卯九月廿五日於千五百五十番子齋と書しとて
 一人堂上方の房紙ありとて之を竹舟のへし白紙と書しとて中紙と
 としとてとてとて

千疊友紙
 監三拾間
 板七間



筆長二間重拾二貫目
 墨五石二斗

以外流字より大文字と書し不退堂門中姓名を移すと
 知者のあつりりひりたりたり

文政九年戌年八月廿一日と二日之間於壬生寺奉納太子札

初日

三百六十畳 岩屋山賜書志願院不退堂先生

百二十畳 丹羽宮川村園本宗徳

二十畳 日新 穆如堂

百畳 京兆 臨地堂

七十畳 同 瀧口堂

中日

百五十畳 江戸 小谷三志

地勢五十畳 同 中村慶行

五十畳 浪華 西池照房

五十畳 京兆 室川福秀

五十疊

南都

玄臨堂

後目

草書六十疊

京兆

大雲堂

五十疊

同

長岡義政

五十疊

同

井村茂淵

仍書六十疊

同

赤川旨武

爰將五十疊

同

顯照堂

右亦十疊大字致多

不送書先生一筆百疊書展觀

文政十一年歲九月廿二日不三日方大坂旅亭寺奉納大字如左

那波小々々東法務局不送堂門人中

初日

六百疊大字

賜書不送堂先生

一百或振疊大字

舟場

玄機堂

同

吟角

龍泉堂

二十疊大字

天隅

小山寺市

同

十三疊
渡屋場

尾色然齋

中日

二百五疊大字

安浪川

石橋莊由

同

生玉住

廣橋利信

六十疊

澁川町

三河徳右衛門

日

高堂
高津

片乃大湖

同 同

天満住人
清角住人

後日

七十畳表大字二枚

不退堂先生

右同日不退堂先生一筆百二年金持書展觀

天保二年外年二月廿四日御幣列新村和川太神宮奉納大字

百畳表大字

射和

井上拙齋

六十畳表大字

同

富山弘道

右亦二字書奉納多

○神田橋外報難言

天保六年己未七月十三日祝神田橋外中野人又の仇を討つる
事初之と同身好小吉之矣己年十二月廿二日祝酒井掛表紙
山中三左衛門中野龜藏といふ名目象印の名をとりて仇を討つる
の儀を記しし上三左衛門一洗して心中を疑ひ昂然とせりし
龜藏の仇を討つるを記しし上三左衛門一洗して心中を疑ひ昂然とせりし
合せし、再び眉を切られ終つて一洗して心中を疑ひ昂然とせりし
事と上通電するに記しし上三左衛門一洗して心中を疑ひ昂然とせりし
六日の高瀬十日の高瀬にて浴衣を着て、又、御行の形ひと記しし上
事と上通電するに記しし上三左衛門一洗して心中を疑ひ昂然とせりし
事と上通電するに記しし上三左衛門一洗して心中を疑ひ昂然とせりし
事と上通電するに記しし上三左衛門一洗して心中を疑ひ昂然とせりし

追ては鼻切し事... 追ては鼻切し事... 追ては鼻切し事...

前物の長く百人の鼻切し事... 前物の長く百人の鼻切し事... 前物の長く百人の鼻切し事...

あまの... あまの... あまの... あまの... あまの... あまの... あまの... あまの... あまの... あまの...

狂女狂解

あまの... 人... 狂女狂解... 狂女狂解... 狂女狂解... 狂女狂解... 狂女狂解... 狂女狂解... 狂女狂解... 狂女狂解...

所一 ちうり 借好しり

○ 撰くの傳

天保六年一し未七月比撰く二是江一ありし時を叙し之を説
医くし一して定りし一予の志を叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し
よりけ度撰くの真心を叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し
左とあり

貴前國守佐郡小濱村百姓と傳所をいし一其旨を叙し其旨を叙し
子ありし一兄は文政八年一し周子出生し其旨を叙し其旨を叙し
年子出生し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し
作事ありし一其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し

妻をい叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し
同十二年一し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し
といふ名ある人の小児をいし其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し
一由りて九年六月に産みし其旨を叙し其旨を叙し其旨を叙し

中津之郷八軒所佐助店

石細工殿石屋本 周次方、高村

旗本

貴前國守佐郡小濱村百姓と傳所

其旨を叙し其旨を叙し

撰壽

日人坊男兵半

将美

日八半

同村百世

長之清 卒六半

長三半 くに 早六半

口村百世

次市太

若八半 将寿

けり同遊い
に天表一廿ある

十一才也茶をどし方十三はも おりも丈二尺一寸は中肉より
かへし瘦り方顔かくそはくもさく顔はけり方外は体不
色白き方越身は体眉毛赤く唇は方髪も長ナ二二三
寸位は赤く髪はさく髪毛もさく日向は若く年々赤髪
了は中肉細き方二寸半^{三寸}眼^{三寸}尖^{三寸}方鼻は体よりかへし高く
冥き方口は並唇かく布はさく歯並ひりく耳は体より指
先はさく尻はく尻のけりりそ髪は赤く髪はさく長方体^{八寸}
言古き方詞少し子云の方

若八半 将美

八才半お趣よおりのさく丈二尺二寸は中肉より瘦り方
髪も長ナ八寸位赤くかへし髪はさく日向は若く年々赤髪

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30



岩八奉
桿員
八七



岩八奉
桿壽
七五

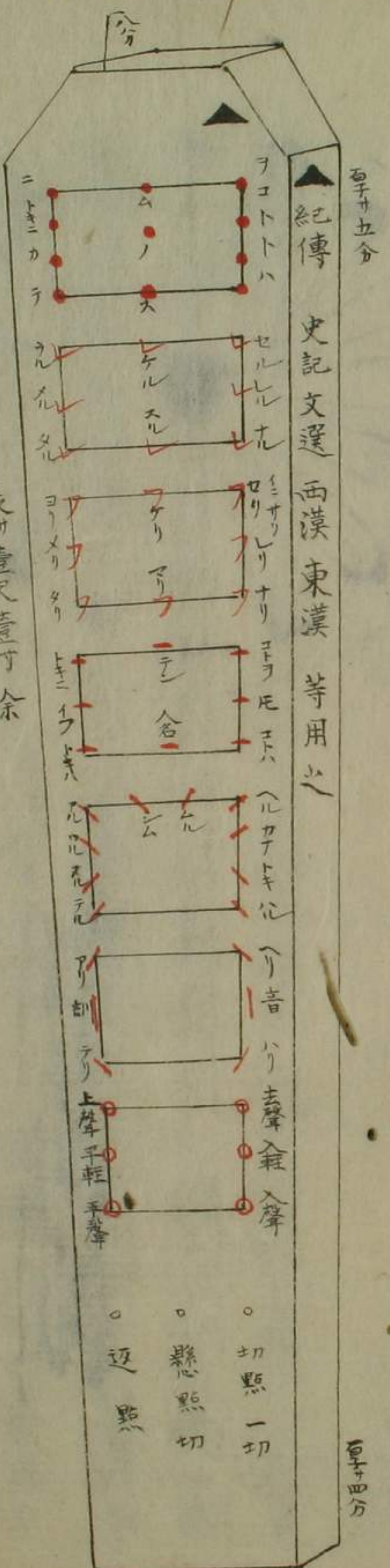
永井氏より借寫せり。全圖左のやうに書かれたるは、

或は日本草綱目云、狸、狸出、哀、牢、夷、及、夫、趾、村、溪、縣、山、谷、
中、畧、似、人、如、猿、猴、之、類、人、面、人、足、黃、毛、



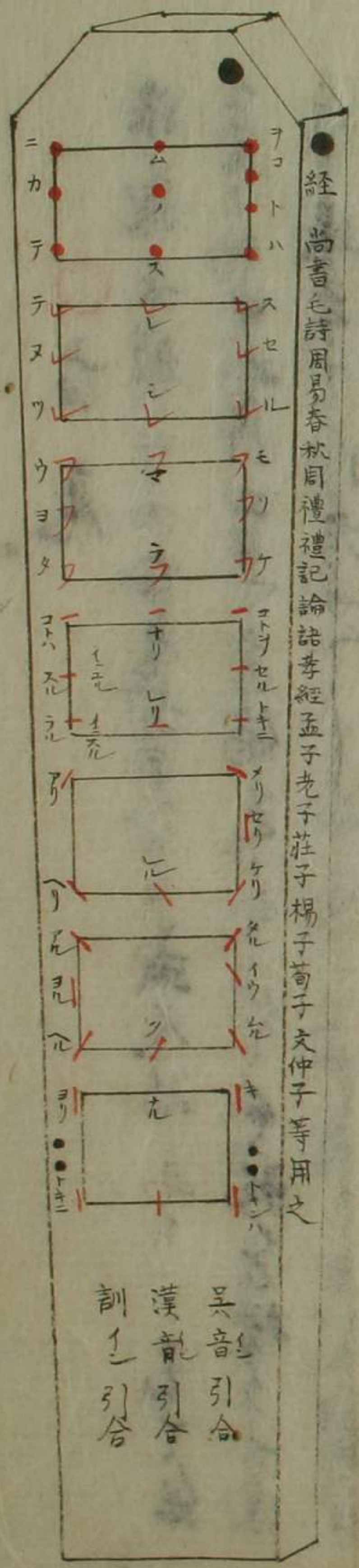
○辛酉止點

天保六年十月七日... 神保氏... 辛酉止點... 高倉右衛門の横中書多



此幅壹寸八分余

長サ壹尺壹寸余

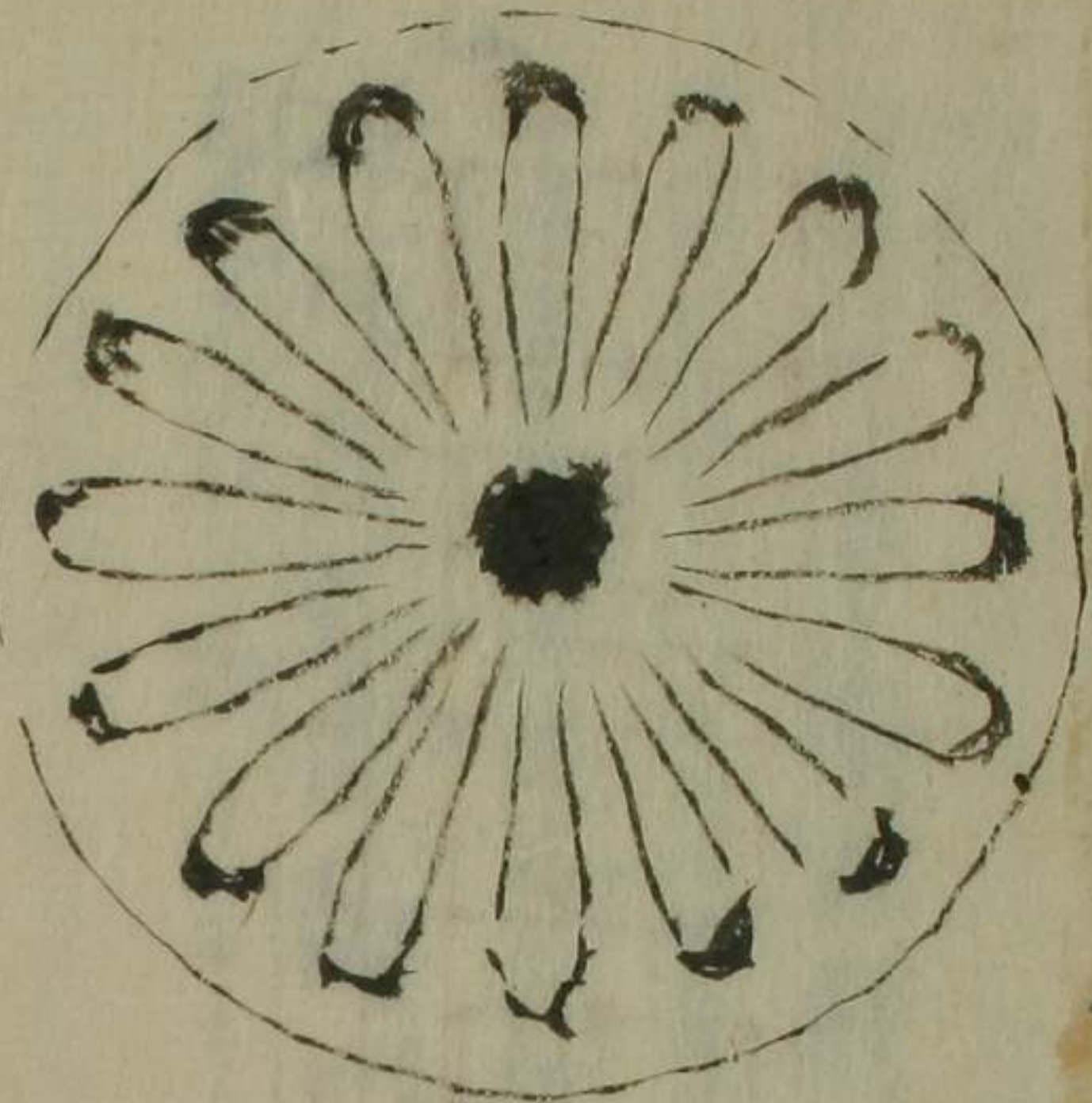


吳音引合 漢龍引合 訓一引合

○古尾

浪神奉願寺の古尾あり。或人持事あり。是と傳
七年丙申六月四日之吉備定の前年。其形を指し、
ちく張立さう格考ふ。

校厚サ



えんさるハ古尾のサウ外

○崩家話

天保三年己未十一月十六日。夜九時。色晴。雲霧。初夜。あり。と
る。山下。湯の井。佐。橋。本。町。の。橋。屋。と。り。湯。屋。の。橋。屋。
一。瞬。の。ろ。ろ。崩。落。さ。り。た。者。の。溝。深。い。や。も。折。ぎ。て。二。階。の。下。
を。降。り。あ。さ。う。一。識。の。氣。味。や。い。ろ。く。町。中。何。れ。も。出。た。と
い。ふ。者。並。け。一。家。の。形。勢。を。い。く。後。倒。せ。し。と。言。う。医。
者。て。或。い。通。り。物。と。い。ふ。又。い。は。此。に。あ。り。あ。ら。う。目。撃。者。
康。平。は。あ。ら。う。合。を。目。撃。し。て。い。ふ。事。を。い。ふ。は。い。ふ。事。
事。を。い。ふ。は。い。ふ。事。を。い。ふ。事。を。い。ふ。事。を。い。ふ。事。を。い。ふ。事。

文政六癸未歲八月十七日 大風由西より世の沖別東浦
の方より一匹の老光海よと飛来り佃沖より一子孫
一羽の方へ飛一うと決絶別佃川岸の郡中へ落地
此一は雄うしおかし仍る夜旦の星燈郵中を以り
馬場の入にへ来りて小犬程の獸中ニ有るよし
抛打へ飛来り嘴付は牙痛大と云ふさ人捕る勢を以
馬へ過りて怪來と云ふよし有りて馬へ入り
立寄り抛打は照し視之に形々音のさうくの美然如
付例 此は役人申へおき

羽を夥う大く眉有るも七八寸の毛重中へ生掛
一眼ありて眸子朱の如く老人を對
鼻形斗の如く孔ありは如く付甲角の如く
づらして水晶の如く古細長く色もさ
口は甚々細くし水標あり前足指は爪は指
前後とも爪のたつき針の如く尾は半の如く
黄毛ありて多量ある如く首根より脊骨
毛二股ありて多量あり横後より腹の毛は白く
紫毛の斑毛あり臍一寸許出鼻氣は極く
乳如く牛の牡を陰不あり唯紅門の如く
同



萬松山曼陀羅開帳狂詩

琴竹頼閑人戲識

天保七丙申年高繩萬松山無量院泉岳寺於曼陀羅開帳
 アリ日本一幅釋迦八相ノ大軸ナリ大般若六百卷諸經文ノ文字ヲ
 以テ圖畫セシトイフ越州ノ圭山禪師ノ筆ト云二月十六日初テ完帳
 六十日間日延十日都合七十日四月廿六日ニテ終ル其形勢目ヲ
 驚カレテ高鳴江都ニ充々タリ隣山如來寺ニモ境内群集シテ西寺
 ノ繁榮ナル事實ニ詞筆ニ盡シ難シ予ガ座右ノ人々箕山翠山
 喬松花鏡娛蝶等ノ始メ何レモ替ルノ日毎ニ見物セシユ奉納觀物ニ
 至マテ大方聞及ヘリ昨日ハ何ノ今日ハ是ト替リシ物ノ出ル毎ニ

其サマイト委敷物語ナスヲ長日睡魔ノ一防トセリ予ハ一度モ見
サレ居ナカラニシテ見ル如ク一二度見物セシ人ヨリモ却テ委細ニ
覺タリ呵々依テ謾言ノ狂詩ニ十余ヲ盡シキモ是其千方一ヲ
述ルナリ又如來寺ニ開帳ノ由ナレトモ何ノ開帳ナルヤ知ラス噂ニ聞ハ
泉岳寺日延ヲ願ヒシ時開帳ヲ願ヒシト云説モアリ何月迄ナルヤ
泉岳寺ノ方終リテモ寺中群集ノヨレナリ此事委敷知リシ後
又別ニ言シ只兩寺ノ繁華ナル形勢ヲ述ルナリ覽者願シハ高
作ヲ賜エカシ

開帳寶軸

曼陀羅ハ大幅ニ堂内ニ掛ル一ナラズ別ニ高サ五間横三間

摩利支天ノ尊像
ハ黄金ニ非ハ画幅
九由主稅所持尤ハ
觀音ニ是カ黄金佛
尤一今日初テ箕山
ヨリ開タリ場所モ
違フニ我士舊塚ノ
門外ト云ヘリ予
目撃セサルト云エ
カル誤猶有ヘシ熟
覽ノ人推蔽シ玉ヘ
此余五月七日ニ
開タリ書改シテ
モウキマ、コ、ニ頭
書ス

ホドノ假堂ヲ修造シ此處ニテ開帳ヲナス尤細畫ナリ
文字ノ画トハ誰モ心付カズ織物ト云人モアリ又寺中ニ觀音
ニ摩利支天ノ添開帳アリ摩利支天ハ黄金ノ由大石
主稅ガ所持ノ尊像ナリト云

皇國無雙尊一軸 三間九尺 曼陀羅圖成
釋迦八相畫 泉岳寺中參者多

義士等所持之靈寶 其品ハ大方番附ニ當カク

鎗劍舊章破鉄衣懸連檀上示餘威或言
遺品又贗物區噂未知何是非

開帳之評

西寺ハ泉岳如來ノ西寺ノ此度開帳ハ真ニ義士ノ開帳ノ如シ
今般開帳勝從聞西寺靈場人若雲評謂
全非尊軸德應依山裏有義墳

又

參者往來日幾千集群義塚酒家邊或此
觀物又靈寶堪笑人班寶軸前

受停止類

人毎ニ錢ヲ受テ義士ノ塚ヲ見スル事四十七人夜詩ノ姿ヲ打粉テ
大槌ヲ持此中ニ菓子ヲ入テ賣行ノ事數處ノ高繩邊ノ茶屋酒樓
都テ提燈能廉亦ハ女子ノ前裾ニ至ルマテ淺野家ノ紋ニ三筋引大石

ノ紋所ヲ添テリ真ニ絶倒ノ至其外停止セラレシ類尤多シソヲ
トニカク言ハ却テ煩ハシ其一ニヲ擧テ證トシ余ハ皆畧セタリ

乞^フ錢^ヲ令^レ見^セ義墳裏或扮^ハ忍^シ姿賣^リ菓子短幘^ヲ
前裾提燭紋忽聞官府皆停止

觀瀾山

泉岳寺中山門ノ外ニアリ高サ十丈余ノ山アリ此度多クノ樹木ヲ
取拂ヒ數十ノ茶店ヲ出セリ眺望殊ニヨシ老樹殿西鬱タルモ如此ニテ一可怖

萬一松山裏有高岡此度拂林作覽場蒼海
市街真絶景懸連茶店置新娘

酒茶店

常徳連車等
話

是等ノ類ハ一絶ニ尽シ難シサレモ皆同シサマナリ多ク言フハ却テ煩ハレク
自ヲ失フ依テ思ス

酒家茶店數無疆婦發怒鳥聲各競粧連國
勤番還俗客頻生已惚日連行

首洗井

此度奉納庭トナリ井ヲカメトリ珍水怪石ヲ並ヘタリカ、ル舊跡ハ
其マ、有テソヨシ刹サ後ニハ井ノ傍ニ一兩人信摩トシテ持水
如ク小器ニ井ノ水ヲ汲テ賽銭ヲ乞テ諸人ニ施スト云真ニ絶倒ノ至ナリ

昔時云洗羽林首半隱叢中猶未朽可
惜即今新掃除舊蹤忽度庭工手

春高松花鏡等
話

箕山寺四人話

奉納物

番附ニ當リ

累炭編錢又積樽漆分手拭恰如幡押描
彩画提燈類處々造成十步圍

又錢細工之類

豎五天横七天余ト云五月十日開

大錢小錢當百錢縱橫連綴任次女編趣工
義士碎門處彩色粲然自画妍

人形輕業

高橋金次郎カ作ニテ尺ニ滿ル其揺動セルサマ人ノ如シ變化自在真賞ス
ハシ是笑布袋ト同小家ナリ

口上如演揺動忙古今早業妙無疆鬼僧

昔作堂後

娑羅ノ話

娑羅山娑羅寺
話

箕山等教人話
開帳第一ノ細工
云

念佛眼前碎忽地變成調布娘

笑布袋

縮緬細工之眠笑ナドノサマ尤妙人形輕業ト同所番付ニ審ナリ

布袋倚牀卧画檀頻為呼起稍醒眠二童
鉦鼓顛成踊恰若放聲笑驟然

山雀成藝

詞ニ從ヒ色ノ藝ヲナス皆ト足トニテ水ヲ汲ム又ハ盤中ニ浴シ小巾ヲ

啄テ去リ體ヲ拭フサヲナス入上覽ト云

更出籠中止并涯隨辭汲水則吞之入盤
洗翅啣巾去閑拭一身妙又奇

花鏡話

大人形

松盛奪周平カ作之韓信一文八尺外三人何レ一文七尺各羅紗ヲ着ス

尤妙工之阿金ハ右ノ人形ヨリモ大ニ是ハ人馬共ニ工妙ナラヌ同人ノ作ニ

顔色肌肢工最奇人形二丈皆如斯阿火來臂力

駐荒馬韓信屈身潛股姿

竹鐵細工花鳥

龍五節ト云人ノ作ルヨシ鶴孔雀牡丹葦杜若石荷皆竹工ニ

就鷺ハ鉄物ノ細工ニ看板ハ木蘭燕木兔ニ

竹工兩鶴雙孔雀添得牡丹燕子花傍見鉄
工岩壁上者羽來荒鷺枕溪涯

喬松等五六ノ話

箕山連車ノ話

模靈

狸丸ヨシ二月十六日初日ヨリ出ツ觀物中ノハシクト云ヘシ

更_ニ繫_ス双_ヲ狸_ヲ稱_シ模_シ雷_ヲ遠_ク從_テ天_ノ竺_ニ是_レ傳_ル來_ス獸_中
未_ダ聽_カ如_ク斯_ノ物_ヲ欺_ル偽_シ婦_見日_幾回

西長谷川大仕掛

西寺ニ於テ自_ラ行_ク乃_ハ方_ト之_レ無_類ノ大_仕掛_新工_方人_ヲ驚_ス十_間余_ノ
四方ノ小_家掛_双方_共ニ番_附ニ委_シ泉_岳寺_ノ方_ハ富_五所_カ細_工之_レ
看_板樓_門ノ高_欄ニ衣_冠ヲ着_シ官_人欄_ニ倚_テ坐_セ傍_テ手_置アリ
少_シ間_{アリ}テ天_女車_ニ乘_テ紫_雲ノ中_ニ有_リ人_形四_尺余_ノ月_宮殿_ノ
体_ト云_傳フサレドモ其_人誰_ナヤ猶_考フベシ金_銀彫_鏤ノ錯_構目_ヲ敬_寫
セリ妙_々如_來寺_ノ方_ハ清_七カ新_業看_板ハ鶴_ヶ岡_ノ氣_色手_傍ニ

額_堂アリ多_ク看_板ヲ額_ニ画_テ上_ニ掛_テ其_下ニ茶_店ヲ出_セノ見_物
ノ人_云ニ休_ムハ九_方ハ三_ッノ人_形アリ五_尺余_則師_直ト鹽_谷夫_婦アリ
上_ハ社_内ノ景_ニ其_形勢_富五_所ト伯_仲ヨリ是_ハ九_{十日}同_自行_由之_レ
十_間四_面小_家懸_ケ新_造雙_方長_谷川_看板

仰山驚萬客金銀彫刻美娟然
長谷川富五所為觀物

赴_向ハ朝_比奈_巡島_ニ異_國ノ景_人物_ヲ作_レリ舞_臺變_改多_ク
變_化舞_臺知_幾回_採消_糴出_テ十_人廻_朝夷_哉
巡_寫異_邦景_人物_山川_工妙_哉
長_谷川_清七_為觀_物

赴向ハ忠臣藏ニテ初段ヨリ一段モ段モ舞臺人形共種々ニ變化ス

金樓城郭又靈場趣向報讎忠臣藏尺馬寸人奇代業須史改變更無疆

童子足力曲持

何レモ七八ノ輩ハ小童ハ十二才計番附ニ委シ

巨石臼瓶或大盤受載兩足周旋安小童登是頻成曲噫妙看人流冷汗

足藝婦

早咲小梅卜号三十ホトノ婦人不美不醜兩手ヲ出サテ手獲ナリ云

或ハ短腕ノサマ感心不少委細番附ニアリ

懷攸兩手不曾出至妙足藝驚客心衣服裁縫絲竹曲胡弓三線又彈琴

金瓶君足技ノ一絶ヲ贈ラレ目テコノ二載ス

金蘭

紅粉青蛾窮伎時金蓮花自在向人施如非金谷墜樓態或是巫山為雨姿

齊潘妃歩ニ生蓮花見南史施宇應伎宇

為觀物雜吟

此類目前ニミアレド悉ク別テ吟スルニ違アラヌ板君手ノ物ハ一絶トシ餘ハ

下ハ雜吟ナシ
其人ハ云ハズ教人
ヨリ日々同ス

集合シテ只其名目ヲ述ル此下ニ皆如此

芝居 寫繪 視機關 絃鼓 數々 嘩二山 夜討
生蕃 褒賞 餅擬名 賣店 遍往 還

又

盲人ノ相撲ハ音人ト婦人トノ相撲ニ大蟹ノ如キ鳥獸魚虫ハ數
甚多シ何レモ拵物多シ

万作 踊歌 不耐 忙 盲人 相撲 恰如 狂大 螃
海 獺 多 其 類 狐 鉤 狂言 猿 戲 場

又

奉納 賣物 見セ物ハ前ニ云言如ク牧拳ニ違アラズ只其十分一ヲ

載ス此處ニ怪カト書シハ前ノ童子ノ事ニアラス別種ニ或水虎

怪犬 蛇 遣ニ又ハ天狗ノ子花角力 其外多ク有皆拙シ

西寺 繁華 日如 斯 雀弓 名鳥 異邦 鯉 天川
白酒 於 輕曉 粟餅 曲春 主稅 飴吹 矢 紅顏
留俗 士 狂言 鉦鼓 集童 兒 其余 怪力 丸山
踊 億兆 參人 難建 錐

其外猶淺セシ物多カルヘレサレドモ餘リ拙キ物ハ皆首筆セリ予モ目撃
セシ非レハ相違ノ處多クアルヘシ熟覽ノ人は是ヲ見バ宜ノ補助ノ高作ヲ賜
フヘシ西寺ノ趣ハ中々言尽シ難シ言タキ事猶數條アレド拙筆ニ及ハス大畧ヲ

喜フノミ

梅子翠山喬松
花鏡寺話

賞問帳

平仄ニカワラス漫言ヲ述

大壯大壯噫大壯嗚呼大壯噫大壯口矣筆矣
難言盡高繩問帳噫大壯

問帳後景

一時問帳實如夢寺裏寂寞人不逢過日
繁榮無影貌只看處々有杭踪

新の如き漫之の我れも捨きし中書集
まゝに記るる年譜に後の一息とありありと
情空の庵の小窓のりりし一年晴とありありと
とありありとありありとありありとありありと
阿惟天保七年丙申福午切全成

爽々秋

松憲雜錄及泉岳寺開帳狂詩置翠軒石
川君隨筆也君以此二本示我予問可否因
使備書謄寫畢

天保七年秋九月上浣

鶴齋陳人

